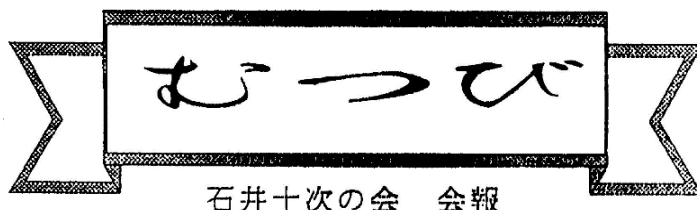


2023年
(令和5年)
11月9日



314号

「一本の猫じゃらし」

高原町長 高妻 経信

私は、数年前から小中学生の登校時の見守り活動を続けています。地域の区長さんから「あいさ2の日だけでもいいから手伝ってよ」と声をかけてもらったのがきっかけでした。(※あいさ2の日〈あいさツーの日〉とは、毎月2の付く日に挨拶運動をすることです。)「あいさ2の日だけなら」と軽い気持ちで始めたのですが、今ではほぼ毎日のように区長さんと私、そして高原町役場の職員で見守り活動を続けています。

朝の見守り活動を続けていると新たな発見や教えられることが多くあります。登校班から離れて泣きながらついてくる小学生。登校班に馴染めずお母さんと一緒に登校する子ども。登校班について歩くのが、やっとだった一年生が今では班長さんになっていたり。続ける内に一人ひとりの顔を覚えてしまい、日によって足取りが重かったりすると「家を出る時、お母さんに叱られたのかな。」「今日は、苦手な教科の授業があるのかな。」などと心配になります。そんな子どもに私から挨拶しても中々返事が返って来ません。でもそんな時には特別に大きな声で挨拶するようにしています。子ども達にウザイと思われようが構いません。ただ、「自分を見てくれている人がいる」ということが伝わればそれで良いと思っています。

石井十次先生の有名なエピソードに私の好きな「縄の帯」の話があります。この話は「まんが 石井十次物語」にも出てきます。十次が7歳の時、村の祭りに母から新調してもらった紬の帯を締めて出かけると、神社の境内で縄のおびを

締めた友人の松ちゃんに出会います。貧しい松ちゃんは、いじめられて泣いていました。そこで十次は、自分の新しい帯と松ちゃんの縄の帯を交換しました。縄の帯を締めた十次は、家に帰りそのことを恐る恐る母に話しました。すると母は、怒るところか「それは良いことをしましたね。」と十次を褒めてくれた、という話です。「自分のことはさておき、人をまず助ける」という精神、そして子どもを温かく見守る母の姿。この話のように人々が貧しいけれど心豊かに暮らしていた時代があったのだと思います。そして児童福祉の父として成長する十次の原点を感じることができるエピソードだと思います。

子どもを取り巻く環境は大きく変わってきました。親の養育義務が果たされないために自分の夢をもつことができない子どもが増えています。しかし、私たちが未来を子ども達に託さなくてはならないことは、今も昔も変わっていません。石井十次先生が児童救済に生涯を捧げられた当時と時代は大きく変わっていますが、その精神は「石井十次の会」の会員の皆様により、脈々と受け継がれています。

私も一員として微力ではありますが、児童福祉の啓発・充実に努めながら、子ども達が逞しく育ち、自分の夢を叶えられる町づくりに邁進して参りたいと思います。

先日、私にとって嬉しいことがありました。登校途中の小学校一年生の女の子が猫じゃらしを一本だけくれました。挨拶は上手にできないけど、「いつもありがとう」と伝えたかったのかも知れません。その猫じゃらしは、空いたペットボトルに差して私の執務室に飾っています。子ども達が勇気を出して小さな一歩を踏み出せるようお願いしながら「おはよう、いってらっしゃい」の声を掛け続けたいと思います。

あの時の感動を子どもたちにも

今年も種を蒔き、苗を作り、色とりどりの花を育ててきた。畑の周りや道路下の土手、石垣に花が満開に咲き誇っていると何となく落ち着く。地域の方が通る度、「きれいですね。」「写真を撮らせて。」等、声をかけてくださると心が躍る。今は秋桜が見ごろを迎えており、癒されている。

そもそも私が草花の奥深さに魅了されたのは、ある一コマがきっかけだった。我が家の軒下に人参の葉を思わせる十センチほどの草が生えていた。二十数年前のことだ。当時、世間ではアスファルトを押しつけて育つど根性大根がニュースに取り上げられていた。もしや、この草はど根性人参に生長するのではないかと待つ事二か月。生い茂った葉の間から次々に出てきたのは四枚のひし形の花びらからなる人参色の花、ハナビシソウだった。風に揺られて蝶が舞っているかのようにみえるこの花に、一目ぼれしてしまった。心を奪われてしまった。

初めての苗づくりは、どこの花壇でもよく見かけるパンジーやビオラにした。花芽を出す作業は、簡単そうに思われた。トレに五百粒蒔いて二週間待ったが、数えるほどしか発芽しなかった。花に詳しい方に尋ねると、パンジー等は二週間ほど冷蔵庫に入れ、種に割れ目が出たところが蒔き時だと教えてくれた。教わった通り蒔くと、ほとんど失敗することにはなかった。その後は、休日になると、一日を勤務していた学校での苗づくりに費やすことが多くなった。あの一目ぼれしたハナビシソウに出合った時の感動を子どもたちにも味わってもらいたい。身近な花に親しむことによって、命あるものに触れる感動を体験してほしい。そう考えると疲れが一気に吹っ飛ぶ。全校の子どもたちは、まだ花のついていない苗の中から自分で選んだものを大事そうに植木鉢に移植する。「これはどんな花が咲きますか。」「それはお楽しみに。」私が幸せを感じる瞬間だった。

石井記念友愛社にも四季折々の花々が咲き乱れ、訪問者の目を楽しませてくれている。友愛園の子どもたちや職員の方の手入れが行き届いている。自然とのかかわりを通して、命あるものへの優しい気持ちを育てているのだ。

編集委員 黒木 三鶴



方舟館からの お知らせ

明治末期、岡山から移築され、石井記念友愛社の敷地内に立つ方舟館。現在は石井十次資料館の案内窓口、また、石井十次の会事務局として使われています。

★石井十次の会 給付型奨学金について

今年度は卒園生6名に毎月2万円を給付しています。10月に後期分を給付しました。奨学金基金は会員のみなさまからの会費や寄付により成り立っています。みなさまのご厚意に心から感謝します。また、大学等で学ぶ子どもたちからの感謝の声は、次号でご紹介させていただきます。

★会員研修のご報告

10月16日(月)都城市の石井記念有隣園と仁愛の家に研修視察に行ってきました。今回は役員を中心に17名が参加。よしこの家や建設中の母子支援センターにも寄り児嶋理事長から説明を受けました。

★12月号の通信発送作業は、 12月13日(水)14日(木)

いずれも9時からです。

★新会員のご紹介(敬称略)

【宮崎市】金丸朱美 森直美 喜納美由樹
為山静世 中原一幸 山口俊樹 大野順子
武井俊輔 坂本みちよ 【西都市】石川健
【都農町】岩田由香 【宮城県】兎澤聖
【岡山県】(株)大町 【福岡県】渡邊福
宮嶋晴子 【熊本県】西崎緑 【鹿児島県】
横山慈丈

★ご寄付をいただきました(敬称略)

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

☎ 884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1

社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会 TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

編集後記

巻頭は大変お忙しい中、高原町長 高妻
経信様から玉稿をいただきました。ありがと
うございました。(編集委員 黒木 三鶴)